

本能小学校跡地の発掘調査

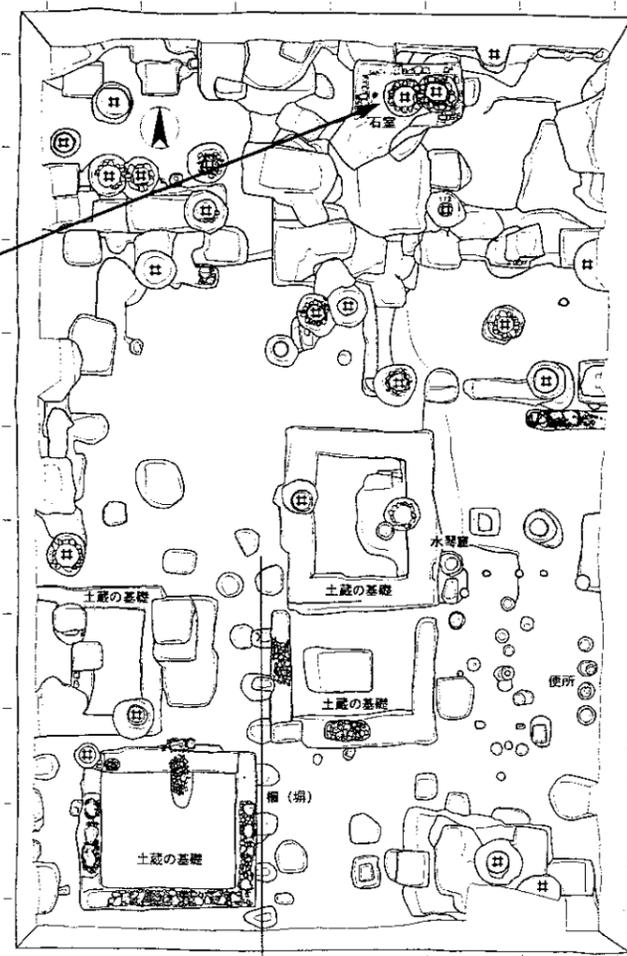
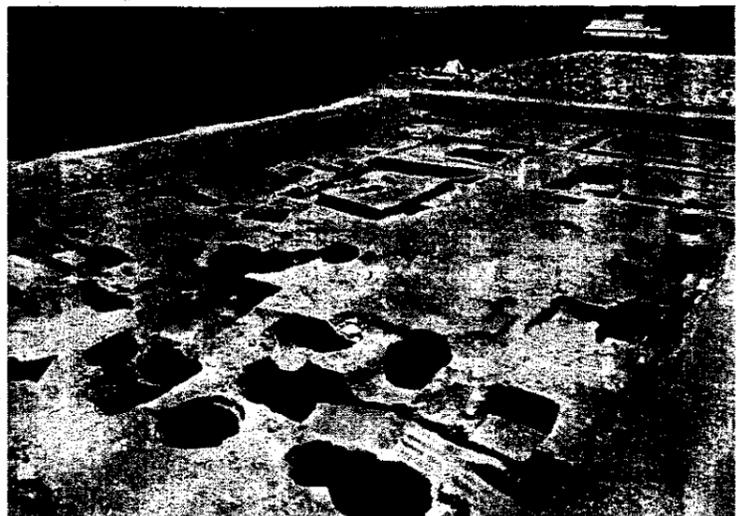
平成14年11月24日
財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

本能小学校跡地は蛸薬師通・油小路通・小川通に囲まれ、平安京の左京四条二坊十四町の西北四分の一町に該当する場所です。北側の十五町は本能寺の旧地にあたりますが、その寺地は十四町の一部にもおよんでいた可能性もあります。また江戸時代の絵図には町家の他、本多甲斐守など武家屋敷があったことが記されています。試掘調査では平安時代から近世の土層を検出し、当地が平安時代から近世にかけての遺構が重複した遺跡であることが確認されました。

発掘調査は平成14年度の8月から始め、約1年間の調査期間を予定していますが、これまでに江戸時代の2面の遺構面の調査・記録を終え、現在は室町時代末頃から江戸時代初頭の遺構の調査を行っているところです。今までに検出したおもな遺構には江戸時代後期のものとしては建物（土蔵）の基礎跡や敷地の境界と思われる柵や井戸・便所の

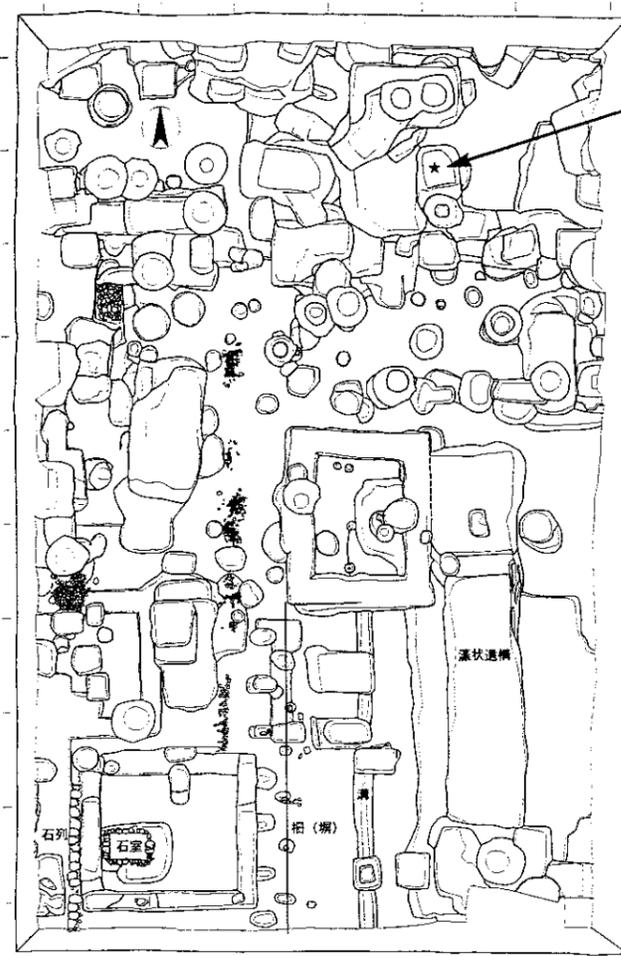
ほか水琴窟なども検出しました。江戸時代前半の遺構には石列・井戸・柱穴・ゴミ捨てと思われる土壇などがあり、土器、陶磁器、瓦が多量に出土しています。

今の所、明らかに本能寺に関連する遺構はまだ見つかりませんが、調査区東部に空濠状の遺構を検出しており、当時の法華宗寺院の性格を考えると、これが本能寺周辺の防御施設の

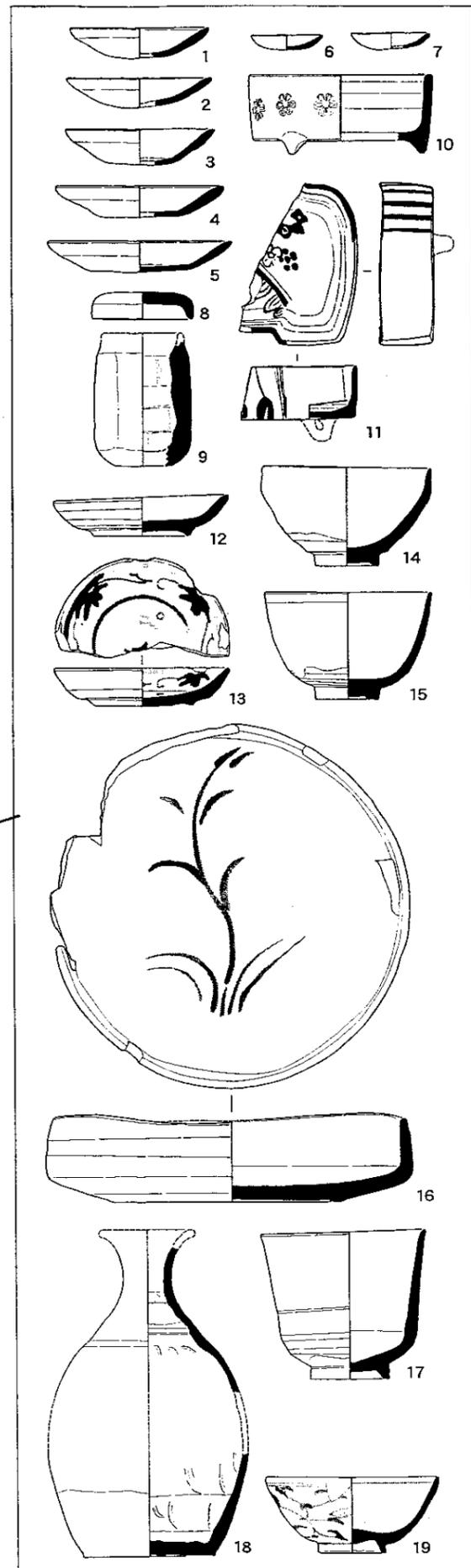


第1面の遺構（江戸時代後半） S=1/300

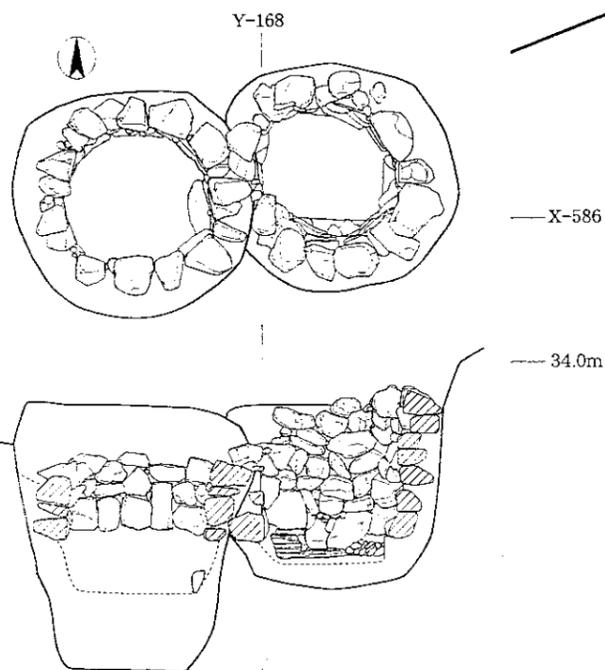
一部である可能性もあります。現在調査を進めている遺構面では桃山時代から江戸時代初頭の大形の土取り穴が多数検出されていますが、この時期の井戸など生活に関連する遺構が全く無いことから、本能寺の移転後に町家や武家屋敷が成立するまでの期間、この周辺が空閑地あるいは比較的人家の密集していない地域であったことが推定できます。



第2面の遺構（江戸時代前半） S=1/300



江戸時代前期の土器・陶磁器 S=1/4



江戸時代の井戸 S=1/50